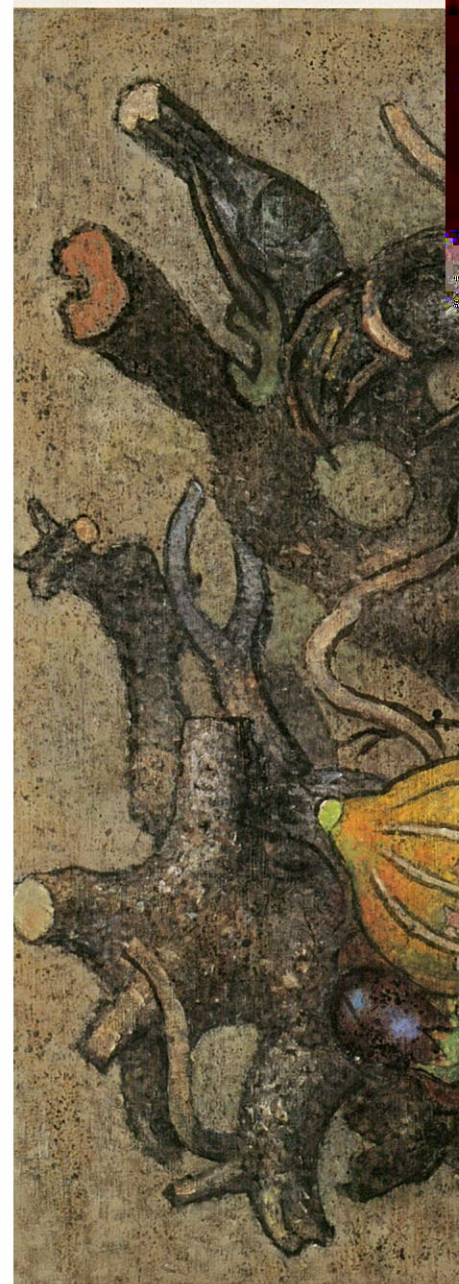


戦後 と 宮本

新たな潮流

2007年7月28日(土)

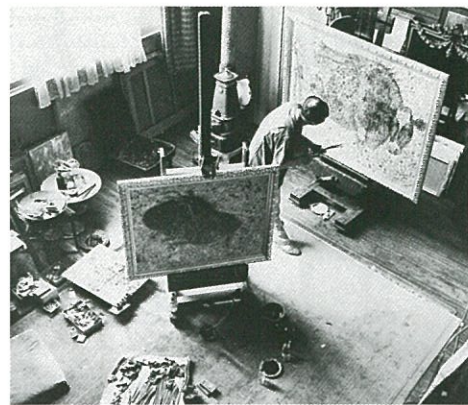


戦後美術と宮本三郎 新たな潮流との対峙

豊かな色彩で描かれた花や裸婦など、その晩年に華麗な絵画世界を展開した宮本三郎。しかし、そこに至るまでには自らの写実的表現の追求という、長年にわたる試行の道のりがありました。

終戦から数年後、疎開先から世田谷のアトリエに戻った宮本は、黒や褐色を基調とした裸婦を描きます。厳しく色彩を制限し、わずかな諧調の中で対象のボリュームと陰影をつかみ出そうとした、自律的な試行が垣間見えます。1950年代の初めには、生涯二度目の渡欧を果たし、それまでに身につけた西洋絵画への造詣を反芻しつつ、新しい絵画表現にも意欲的に目を向けています。とりわけ1960年前後に描かれた《乳牛》や《流水》のシリーズは、宮本が抽象表現に最も接近した時期のものです。当時の洋画壇を席卷した、アンフォルメルやアクションペインティングといった新しい表現が、宮本にとっても見据えざるを得ない大きな時代の潮流であったことがうかがえます。

本展では1950年代から60年代にかけて制作された作品を通じ、敗戦後の日本で宮本三郎が切々と自己と対峙しながら、独自の創造を深めるためにいかなる模索と試行を重ねたのかを探っていききたいと思います。



アトリエにて 1958年(昭和33)撮影



1



2



3



4



5

- 1・・・《画室の裸婦》 1954年(昭和29)
- 2・・・《乳牛》 1958年(昭和33)頃
- 3・・・《流水 手取川》 1959年(昭和34)
- 4・・・《薪を運ぶ人》 1957年(昭和32)
- 5・・・《裸婦》 1962年(昭和37)

世田谷美術館 奥沢分館

宮本三郎
記念美術館
Miyamoto Saburo Memorial Museum

2007年7月28日(土)～11月25日(日)

●開館時間／10:00～18:00(入館は17:30まで) ●休館日／毎週月曜日(ただし休日と重なった場合は翌日) ●観覧料／一般200円(160円)、大学生150円(120円)、中小生100円(80円)、65歳以上及び障害者の方100円(80円) ※ ()内は20名以上の団体料金。小・中学生は土・日・祝日及び夏休みの間無料。※障害者で小・中・高・大学生、及び障害者の介護者(該当障害者に一人につき一人に限る)は無料。 ●お問い合わせ／〒158-0083 世田谷区奥沢5-38-13 TEL:03(5483)3836 <http://www.miyamotosaburo-annex.jp> ●最寄交通機関のご案内／東急目黒線「奥沢」駅 徒歩8分・東急大井町線「九品仏」駅 徒歩8分・東急大井町線・東横線「自由が丘」駅 徒歩7分



本館情報

世田谷美術館 〒157-0075 世田谷区砧公園1-2 TEL:03-3415-6011(代)

〈企画展〉「福原信三と美術と資生堂」 9月1日(土)～11月4日(日)

「パラー・ふたつの人生
鬼才・中島敦と日本のゴッガン土方久功」 11月17日(土)～2008年1月27日(日)

〈収蔵品展〉「夢からの贈り物 ルー・ルドン・長谷川潔・駒井哲郎」 8月11日(土)～12月2日(日)

分館情報

会期:7月28日(土)～11月25日(日)

駒沢分館 向井潤吉アトリエ館 〒154-0016 世田谷区弦巻2-5-1 TEL:03-5450-9581

「向井潤吉 構図と色彩 その視覚と風景」

成城分館 清川泰次記念ギャラリー 〒157-0066 世田谷区成城2-22-17 TEL:03-3416-1202

「青年とライカ 清川泰次がライカⅢaで写した昭和初期の学生生活」